

一般質問

今定例会の一般質問には田口寿宣、田口喜義、佐々木章、浅利則夫、真崎寿浩、青柳宗五郎の6氏が登壇し、当局の考え方を質した。その内容は、「NPOや各種団体との協働」「菜の花の利用」「市長選出馬の意思表示」「庁舎整備方針」「市有施設への命名権の導入」「桜の都市づくり」などの考え方を聞いた。

NPOや各種市民団体との協働を 観光にさらに進展を図る



NPOや各種市民団体と協働で取り組むべきと考えるが、市長の考えを伺う。

田口寿宣

質問 仙北市においてNPOや各種市民団体が多く存在する。様々な形で活動をしているが、こうした組織の共通している部分は、あらゆる観点から地域を元気にして行こうという考えや意識をもって活動をしている。諸課題の解決や活性化に向け、積極的に

答弁 合併後の施策による地域づくりということとを揚げてきた。これからの地域づくりは行政主導、行政が先頭に立つてのみ行うのではなく、市民参加型の行政でなければならぬと思っている。市としての取り組み姿勢は、総合計画にも挙げて行っている。さらに市民、NPO等の団体組織との協働ということを

進めて行く認識を持っている。

質問 観光振興において、NPOや各種市民団体と協働で事業を進める事により、様々な効果が生まれるのではと思うが、市長の考えを伺う。

答弁 現在、市に主たる事業所を置く、特定非営利活動法人は13ある。その定款の中に目的というの記載されている。観光関係に深いつながりのあるNPO法人は13のうち8つぐらいある。残りは医療福祉関係のNPOである。そのような方たちとともに協働しながら、対等の立場で



生涯学習の拠点の一つ西木公民館

今後活動していくことにより、観光をさらに進展が図られるものと思っている。

質問 生涯学習について各種教室への参加者が、地域の垣根を越えて参加できる仕組みづくりが必要と考えるがどうか。

答弁 合併して4年目の歴史を踏まえて活動を展開している。社会学科という学科は地域に根ざしたグループであり、5つの学科のうち4つ見ると20%〜30%ぐらいの方々が、角館以外から参加している。今後は産官連携して市民の交流、融和

を図る活動に結びつけて、団体への一層の交流促進を図りたい。

質問 文化祭の位置付けをどのように考えているのか、また一度だけでも3地区が一つになって文化祭を開催できないものか。

答弁 文化活動団体が、毎日の活動した成果を一つにまとめて地域

菜の花を耕作放棄地、内陸沿線に活用 景観観賞も含め検討する



と思うが市ではこれまでどのような指導をしてきたか、又転作に関する総合的な施策はどうか。

答弁 国のコメ政策の

質問 今年度の大きな傾向として、加工米の作付が昨年より80ヘクタール増の139ヘクタールであると聞いている。

毎年確認をしている中で団地化や、集積化をして合理的に作業、生産をした方がよい地域がある

国の中ですべての生産量が地域ごとの目標数値が示されてきているがこのような中において仙北市に合ったコメの品種の奨励などを国、県、農業団体に要望している。

一方、コメを作れなくなった農地に対してどういう作目を展開していくかということも仙北市と